映画上映＆木村泰子氏講演会

（大阪市立大空小学校初代校長）



全ての子どもを安心して
社会に送り出すために

学級経営のお悩み

子育ての戸惑い

地域の関わり方

進むべき道のヒントがきっと見つかる

不登校も特別支援学級もない、みんな同じ教室で一緒に学ぶ

日時：１２月６日（日）１３：００～１６：３０（受付１２：３０から）
会場：アピオあおもり（青森市中央３丁目１７）
対象：教育に関心のある方（教員、保護者、学生等）

映画　１１０分
講演　　７０分

主催　特定非営利活動法人 日本人財発掘育成協会、特定非営利活動法人 はちのへ未来ネット
協賛　一般社団法人 あい育英会
後援　青森県教育委員会、青森市教育委員会
青森県ＰＴＡ連合会、青森県高等学校ＰＴＡ連合会、青森県特別支援学校ＰＴＡ連合会、青森市ＰＴＡ連合会
青森放送株式会社、株式会社青森テレビ、青森朝日放送株式会社
株式会社東奥日報社、株式会社デーリー東北新聞社、株式会社陸奥新報社






すべての子供に居場所がある学校を作りたい。

大空小学校がめざすのは、「不登校ゼロ」。ここでは、特別支援教育の対象となる発達障害がある子も、自分の気持ちをうまくコントロールできない子も、みんな同じ教室で学びます。ふつうの公立小学校ですが、開校から6年間、児童と教職員だけでなく、保護者や地域の人もいっしょになって、誰もが通い続けることができる学校を作りあげてきました。

すぐに教室を飛び出してしまう子も、つい友達に暴力をふるってしまう子も、みんなで見守ります。あるとき、「あの子が行くなら大空には行きたくない」と噂される子が入学しました。「じゃあ、そんな子はどこへ行くの？ そんな子が安心して来られるのが地域の学校のはず」と木村泰子校長。やがて彼は、この学び舎で居場所をみつけ、春には卒業式を迎えます。いまでは、他の学校へ通えなくなった子が次々と大空小学校に転校してくるようになりました。

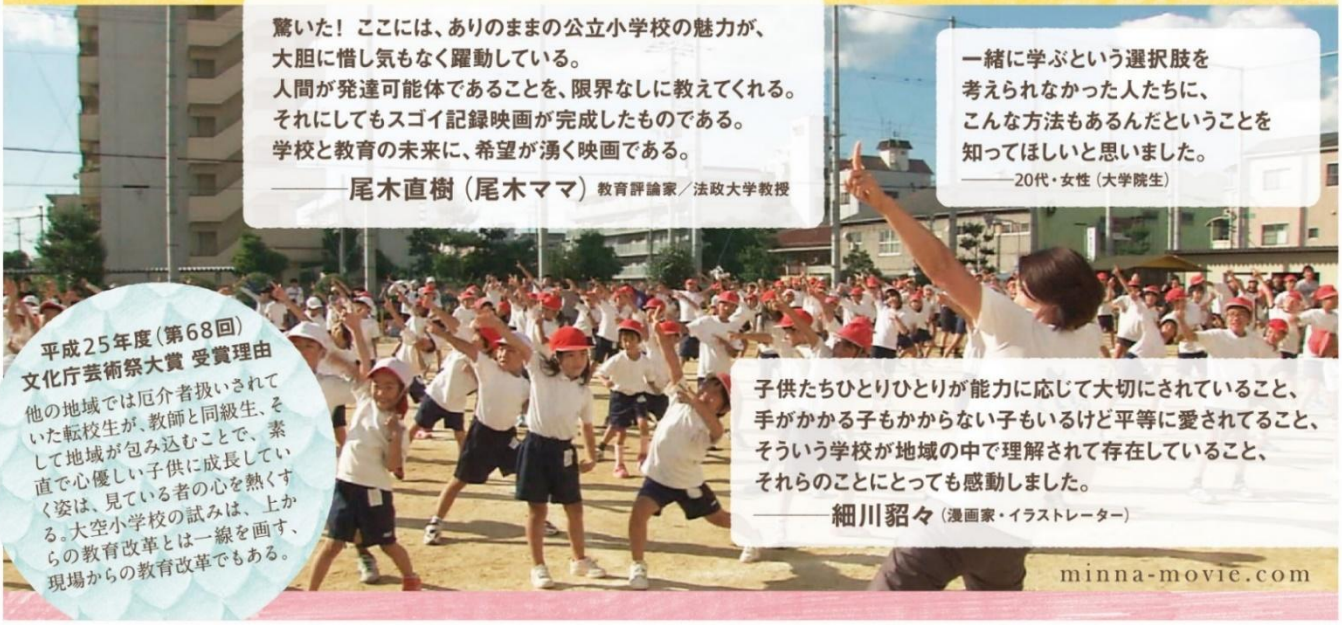


学校が変われば、地域が変わる。そして、社会が変わっていく。



このとりくみは、支援が必要な児童のためだけのものではありません。経験の浅い先生をベテランの先生たちが見守る。子供たちのどんな状態も、それぞれの個性だと捉える。そのことが、周りの子供たちはもちろん、地域にとっても「自分とは違う隣人」が抱える問題を一人ひとり思いやる力を培っています。

映画は、日々生まれかわるように育っていく子供たちの奇跡の瞬間、ともに歩む教職員や保護者たちの苦悩、戸惑い、よろこび……。そのすべてを絶妙な近さから、ありのままに映していきます。そもそも学びとは何でしょう？ そして、あるべき公教育の姿とは？ 大空小学校には、そのヒントが溢れています。みなさんも、映画館で「学校参観」してみませんか。



驚いた！ ここには、ありのままの公立小学校の魅力が、
大胆に惜し気もなく躍動している。
人間が発達可能体であることを、限界なしに教えてくれる。
それにしてもスゴイ記録映画が完成したものである。
学校と教育の未来に、希望が湧く映画である。
——尾木直樹（尾木ママ）教育評論家／法政大学教授

一緒に学ぶという選択肢を
考えられなかった人たちに、
こんな方法もあるんだということを
知ってほしいと思いました。
——20代・女性（大学院生）

平成25年度（第68回）
文化庁芸術祭大賞 受賞理由
他の地域では厄介者扱いされていた転校生が、教師と同級生、そして地域が包み込むことで、素直で心優しい子供に成長していく姿は、見ている者の心を熱くする。大空小学校の試みは、上からの教育改革とは一線を画す、現場からの教育改革でもある。

子供たちひとりひとりが能力に応じて大切にされていること、
手がかかる子もかからない子もいるけど平等に愛されてること、
そういう学校が地域の中で理解されて存在していること、
それらのことにとっても感動しました。
——細川貂々（漫画家・イラストレーター）

minna-movie.com

お申し込みはこちらから
当日も受付けますが、できるだけ事前に
お申し込みください。

LINE

お問い合わせはこちらから
kokoro.window@gmail.com